

危機は1号機から始まった

消費は当時

2011年
3月11日
午後2時46分

地震が発生
1~3号機の原子炉が緊急停止、4~6号機は定期検査で停止中、外部電源がなくなり非常用発電機が起動、それぞれの原子炉で冷却機能が作動、1号機ではDCの起動と停止を繰り返す

3時35分

津波が原発敷地内に浸入
配電盤や非常用発電機が水没。地質の被害を調査中の社員2人が行方不明になり、後に遺体で見つかる

3時41分

1.3、2号機の間に金属性電線が喪失

4時45分

政府が原子力緊急事態を政府に報告

7時03分

政府が原子力緊急事態を宣言

8時50分

福島県が大震災、双葉町に振舞から2度の住民を避難させるよう要請

9時23分

政府、3~5階の住民に避難指示、3~10階の住民に屋内避難を指示

11時15分

1号機原子炉が遮断して流量が上昇したため入りを禁止。中央制御室のホワイトボードには、午後11時過剰注入物禁止との記載が残されていて

11時50分

1号機の危険容積の圧力が設計上の上限を大きく超えていると判断。吉田昌哉所長は「ICが作動していないかも」と考えた

3月12日
午前1時30分

東電が1~2号機の冷却塔の圧力を下げるためのベンチを政府に申し入れ、了承を得る

4時44分

1号機で消防車を使った原子炉注水を開始。このころ敷地内の放射線量が上昇し始める

5時44分

政府が10~5階の住民に避難指示

6時50分

ベンツがなかなか実施されず、海江田万里経産相がベンツを命令

7時11分

菅直人首相がヘリコプターを使って福島第一原発を訪問。吉田所長と面会

9時40分

ベンツ実施のために運転員が1号機の原子炉建屋へ出発

11時36分

3号機で冷却装置のRCICが停止

午後1時45分

3号機で緊急停止したシステムのHPCIが自動で起動

2時30分

東電、1号機のベンチに成功したと判断

5時44分

吉田所長が1号機への海水注入を指示。防火水槽の洪水がなくなったため

3時36分

1号機の原子炉建屋が水漏れ

6時22分

政府が20~5階の住民に避難指示

7時50分

1号機で海水を使い、消防車による原子炉注水を開始

2時54分

宮城に勤めていた東電幹部が5泊水注入をいったん停止する。よう言わされたが、吉田所長の判断で実際にこれは継続される

3時13日
午後2時42分

3号機の運転員がHPCIを手動で停止。代わりの注水手段へ切り替えをめざす実施はできず

3時55分

吉田所長がHPCIの停止を本店に報告

5時15分

吉田所長が3号機のベンチに向けた最終手段を指示

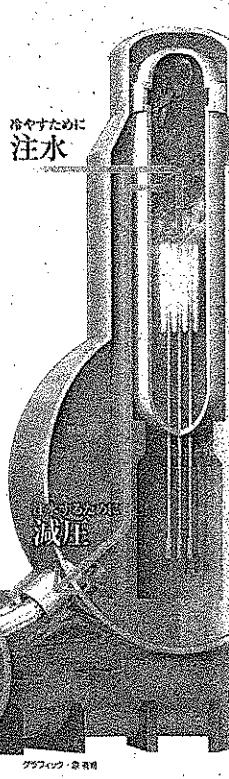
6時5分

3号機の原子力緊急事態を政府に報告

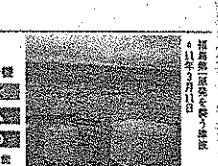
3時14日
午前1時0分

3号機の原子炉建屋が水漏れ

①写真は実際のもの
②空港ホームページから



通常の原子炉停止時の冷却



電源を失う



冷却装置が止まる

